

# 2021年度 事業報告書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

# 目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究（定款第5条1号）	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
6	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
7	人材の育成（定款第5条4号）	6
8	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	9
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	11
10	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	13
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	13
	参考：事業区分の説明	15

# ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会

会長 寺師 茂樹

2020 年初頭より世界的に広まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、2 年を過ぎた現在も終息しておらず、私の自動車技術会の会長としての 2 年間も正にこの新型コロナウイルスへの対応が最大の課題となりました。皆様方ご自身もご家族を含めた健康の確保や業務の遂行に大変苦労されたこととは思いますが、自動車技術会に対して倍旧のご支援とご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

2021 年度の主な活動を振り返りたいと思います。

まず、会誌「自動車技術」は 4 月号より完全電子化に移行しました。これにより発刊と同時にいつでもどこでも購読できる電子ブックになり、在宅が増えた会員の皆様にもタイムリーにお届けすることができるようになりました。

2020 年度末、本会のブランドロゴを刷新し、ビジョン・ミッション・ステートメントを明文化しましたが、5 月の春季大会では改めて会長挨拶にて紹介し周知・普及活動をスタートさせました。

春季・秋季大会の学術講演会やキッズエンジニアは、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、オンライン（ライブ配信と録画配信）で開催となり、対面での交流の機会は作れませんでした。一方で会場のキャパシティの制約もなくなるとともに、これまで現地参加が難しかった遠隔地の方々の参加も可能になり、多くの方に参加いただくことができました。

また展示会は、横浜・名古屋・オンラインの 3 本立で計画しておりましたが、緊急事態宣言が発令される事態を受け、横浜・名古屋のリアル展示会は中止とし、すべてオンライン展示会として開催しました。こちらも多くの方に参加いただきましたが、皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

学生フォーミュラ日本大会は、車検/動的審査は中止しましたが、静的審査、表彰式をオンラインで開催するとともに、後日、公式記録会を実施しました。学生たちからは、走れる機会に対して多くの感謝の言葉がありましたが、2 年間のブランクは学生の自主活動に大きな影響を与えていることも感じました。今後もしっかりと学生への支援活動を継続していきたいと思います。

CASE, Maas 時代をむかえ新たな技術領域との連携が重要になってきていることを踏まえ、2 月には“くるまからモビリティへの技術展”を開催しました。異分野の第一人者 15 名の方からの講演は大変好評を得ましたので、これを契機に新技術領域との連携・交流に繋げていきたいと思います。

最後になりますが、会員数におきましては、賛助会員数は 2020 年度と比べて大きな変動はないものの、個人会員数は 4 年連続で減少となりました。会員減少対策として、会員・非会員を問わず全てのステークホルダーが参加・交流できるプラットフォームを構築する“会員情報プラットフォームプロジェクト”を拡大し、今後 3 か年計画で、本会の全システムの連携、新データベースの構築を進めていく予定です。また 4 月から若手技術者入会キャンペーンを実施してまいります。

自動車技術会は、今後も With CORONA 時代の新たなライフスタイルに対応した情報発信や議論の場を提供し、更なるサービス向上につとめていきたいと思っておりますので、引き続き、会員並びに関係者の皆様より、一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

# 1 総 会

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を鑑み、感染拡大防止のため、また、ご出席者の安全を最優先とする配慮の観点から、代議員の皆様には、書面またはインターネットによって議決権を行使いただくことを推奨し、理事以外のご出席を要請しないこととして、2021年5月27日に、第11回定時総会を開催した。

寺師会長（2020-2021年度）の議長により次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

書面またはインターネットによる議決権の総数：191個

議案：

第1号議案：2020年度決算報告の件

第2号議案：理事交代の件

第3号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2020年度事業報告の件

(2) 2021年度事業計画の件

(3) 2021年度予算の件

# 2 役員会

理事会4回、担当理事会3回、及び支部担当理事会2回を開催した。

# 3 会 員

2021年度中の個人会員の入会者数は2,293名、退会者数は3,459名で、2022年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し1,166名減の44,800名となった。賛助会員の入会数41社、退会数は33社で、2022年3月31日現在の会員数は前年度比8社増の685社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2017年度	52	47,150	2,214	49,416	642
2018年度	51	46,887	2,010	48,948	669
2019年度	50	46,882	1,914	48,846	695
2020年度	49	44,611	1,306	45,966	677
2021年度	50	43,432	1,318	44,800	685

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海 外	合 計
2017年度	212	575	18,680	22,497	6,247	939	266	49,416
2018年度	215	527	18,483	22,153	6,390	930	250	48,948

2019年度	212	530	18,421	22,243	6,311	882	247	48,846
2020年度	190	400	17,408	21,037	5,897	832	202	45,966
2021年度	194	397	16,900	20,685	5,654	784	186	44,800

#### 4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

自動車及び自動車関連技術の調査・研究・交流活動を目的とする49部門委員会の活動を推進した。

共同研究センターでは、産学連携事業、他学会協会との連携事項、受託研究事業などを目的とする4委員会が活動を推進した。（新型コロナウイルス感染防止のため、委員会活動は、原則、オンラインによるものとした。）

部門委員会と共同研究センター傘下の各委員会の企画により、2021年春季大会においては67件のオーガナイズドセッション（OS）を企画し359編の学術講演会をオンラインにて実施、フォーラムについても、7月に19プログラムをオンラインにて開催し、新たな方法による技術交流の促進に貢献した。

国際会議関係では、5月に「EVTcC2021」をハイブリッド開催で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もありオンラインにて開催となった。「FAST-zero'21」（9月開催）ならびに「第32回内燃機関シンポジウム」（12月開催）もハイブリッド開催を予定していたが、同様の状況によりオンラインにて開催となった。

##### 技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回オンライン開催
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。3回オンライン開催
イノベーション創出委員会	今年度開催無し
合同会議	2021年8月20日オンライン開催、176名出席、基調講演2件、事務局から事業報告と2022年度事業計画策定を依頼、技術部門貢献賞および学術講演会運営功績感謝状の表彰もオンラインにて開催
分野連絡会	今年度開催無し
部門委員会	49部門委員会で活動、委員会延べ開催数251回、話題提供数411件（新型コロナウイルスの影響により、原則、委員会オンライン開催）
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を行った
国際会議	以下の国際会議を準備、開催した。 ・EVTcC2021（2021/5/24～26、パシフィコ横浜）オンライン開催 ・FAST-zero'21（2021/9/28～30、東京農工大学）オンライン開催 ・第32回内燃機関シンポジウム（2021/12/7～9、群馬大学）オンライン開催
OS・フォーラム	OS：2021年春季大会にて67件を企画・実施した。（セッション全体80件） フォーラム：7月6～9日、オンラインにて16件開催（全体19件）
シンポジウム・講習会	シンポジウム：21件オンライン開催、講習会：4件オンライン開催 シンポジウム・講習会合わせて総動員数3,428名
公開委員会	13件を企画・実施（オンライン開催）
研究調査事業	拠出型1委員会が2テーマで実施。総額 1,273千円 大気環境技術・評価部門委員会 総額 1,200千円
受託・請負事業	受託先：日本自動車工業会 車外騒音部門委員会 総額 858千円

	受託先：環境省	
その他活動	振動騒音部門委員会	第11回技術者育成プログラム（主に学生対象）
	流体技術部門委員会 デザイン部門委員会	第6回技術者育成プログラム（主に学生対象） 第9回二輪デザイン公開講座
	材料部門委員会	第10回中高生対象カーデザインコンテスト
	構造形成技術部門委員会	日本鉄鋼協会と「自動車用材料共同研究調査会」で連携
	自動車制御モデル部門委員会	新構造材料技術研究組合（ISMA）と「マルチマテリアル構造設計技術調査委員会」で連携 計測自動制御学会と連携

#### 共同研究センター

運営委員会	共同研究センターの運営他について議論した。2回オンライン開催
委員会活動	4委員会にて調査研究活動を推進、委員会延べ開催数21回、話題提供者数14件。「新規事業企画検討委員会」が10月に新設。（新型コロナウイルスの影響により、原則、委員会オンライン開催）
OS・フォーラム	OS：2021年春季大会にて1件企画した。 フォーラム：7月6～9日、オンラインにて2件開催（全体19件）

OS: Organized Session

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology toward zero-traffic-accident

## 5 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、5月の春季大会は初のオンライン開催となったが成功裡に終わった。フォーラムは昨年度同様に単独で7月に19件をオンライン開催した。10月の秋季大会は2度目のオンライン開催となった。学術講演会には2,700名が参加し、各参加者は以前よりも多くの講演を聴講されていた。自動車技術展：人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋での実地とオンラインの3本立てで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実地開催を中止、初のオンライン展示会を予定通り開催した。また、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てた“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE を初開催した。

<b>春季大会 &lt;2021年5月26日（水）～28日（金） オンライン&gt;</b>	
学術講演会	80セッション、講演数359編（内、英語講演64編） 参加登録者数4,035名
Keynote Address、 学生ポスターセッション	参加登録者数837名
授賞式	
<b>フォーラム &lt;2021年7月6日（火）～9日（金） オンライン&gt;</b>	
フォーラム	19件、参加登録者数3,536名、延べ聴講者数4,793名
<b>秋季大会 &lt;2021年10月13日（水）～15日（金） オンライン&gt;</b>	
学術講演会	62セッション、講演数281編（内、英語講演17編）、 参加登録者数2,700名
北海道支部企画特別講演、 学術講演会運営委員会企画 特別セッション	参加登録者数338名 （延べ聴講者数 特別講演356名、特別セッション552名）

自動車技術展 <2021年5月26日(水)～28日(金)パシフィコ横浜(横浜市)> (中止)	
人とくるまのテクノロジー展 2021 横浜	新型コロナウイルスの影響により中止
<2021年6月30日(水)～7月2日(金)ポートメッセなごや(名古屋市)> (中止)	
人とくるまのテクノロジー展 2021 名古屋	新型コロナウイルスの影響により中止
<2021年5月26日(水)～7月30日(金)オンライン>	
人とくるまのテクノロジー展 2021 オンライン	出展社数 458 社、 来場登録者数 52,636 名、訪問者数 212,495 名
“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE<2022年2月14日(月)～18日(金)オンライン 延長期間 19日～25日> 出展社数 21 社、来場登録者 13,912 名、訪問者数 31,852 名	
シンポジウム	
委員会企画 シンポジウム・講習会	オンラインでシンポジウム 21 回、講習会 4 回を開催、計 3,428 名参加

## 6 学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を、昨年度から引き続き実行した。また出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった13名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

### 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行 (公1)

会誌「自動車技術」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車技術者、研究者などにとって有益なテーマを毎月特集テーマとして取り上げた記事を掲載</li> <li>*ただし、毎年1月号は「自動車の将来展望」をテーマとし、8月号は「年鑑号」として前年中の自動車および関連分野の動向や統計データを総括して掲載</li> <li>幅広い読者層を焦点にあてて、「記事の多様化」や「鮮度の高い情報発信」を目的に、2020年4月号より技術解説記事(特集記事)と、速報性の高い記事(ホットトピックス記事)の2本柱にて会誌を構成</li> <li>魅力ある会誌作りに向けた編集体制の強化</li> <li>年鑑号英語版のウェブサイト掲載を継続</li> <li>2021年4月号より電子化し、オンラインにて配信することで、タイムリーに会員に新刊を提供</li> <li>毎月、個人会員・賛助会員・購読者など(約43,000件)に対して配信</li> <li>*2020年4月より読者アンケートを実施</li> </ul>
文献情報収集	文献情報検索システム上に、3,241件(～3月末時点)の文献情報を掲載
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2021年度は、Vol.11 No.3～Vol.12 No.2として、計9回発行した 閲覧ページのHTML化を継続
日本の自動車規格 (2020年日本語版)	JIS規格 377件、JASO規格 361件、TP・TR 67件、TRIAS 254件を収録
JASO Standards (English ver.) Viewer	英訳されたJASO規格 274件、TP 18件を収録

高翔	関東支部企画・編集により 2 回発行
宙舞	中部支部企画・編集により 2 回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により 2 回発行
テストングツール 最前線 2021	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事をオンラインにて配信 会誌に合わせて会員に配信
次世代自動車技術 最前線 2021	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事をオンラインにて配信 会誌に合わせて会員に配信
みんなのモーターサイクル 工学講座	2022 年 3 月 4 日発行、本文 184 頁、初版 2,500 部印刷
<b>研究発表に関する学術誌の発行 (公 2)</b>	
自動車技術会論文集	年 6 回発行し、208 編を J-STAGE にて公開
International Journal of Automotive Engineering	英文の電子ジャーナルとして年 4 巻発行、21 編を J-STAGE にて公開 IJAE の論文投稿サイトを改修
学術講演会予稿集	春季大会分 359 件を電子媒体にて発行 秋季大会分 281 件を電子媒体にて発行
Summarized Paper	2021 年春季・秋季大会での発行分を WEB 上で公開
フォーラム資料	18 イベントを電子媒体にて発行、合計 80 文献を発行
<b>人材育成に関する学術図書の発行 (公 3)</b>	
シンポジウム・講習会 テキスト	25 イベント分を電子媒体にて発行 合計 207 文献を発行
九州支部	学自研機関誌 (Eternal Car Life 23 号) 発行
<b>広報関連他の発行</b>	
プレスリリース	22 件配信
ニュースレター JSAE Eye	4 回発行 (4 月、7 月、10 月、1 月) ※今年度にて発行終了とし、今後は会誌等に内容を移行する。
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信 (登録者: 約 4 万 6 千名)
北海道支部	支部だより 1 回発行
関東支部	メルマガ 28 件配信
中部支部	メルマガ 12 件配信
関西支部	行事案内 6 回発行

## 7 人材の育成 (定款第 5 条 4 号、公益目的事業 3)

新型コロナウイルスの影響により、一部実地催事の中止を余儀なくされたが、一方でオンライン対応を推進した。第 3 回自動運転 AI チャレンジはオンライン競技とオンライン表彰式を実施した。第 19 回学生フォーミュラ日本大会 2021 は当初、8 月下旬から実施するオンライン開催(静的審査)と 9 月初旬の現地開催(車検/動的審査於静岡県エコパ)を計画していたものの、7 月末時点での新型コロナウイルスの影響を鑑みて現地開催は中止とし、オンライン開催のみの実施となった。本大会実施後、感染症の影響が沈静化した 10 月下旬以降に車検/動的審査の代替イベントとして、地域ごとの模擬車検会および静岡

県エコパでの公式記録会を実施した。広報活動としては、2021年シーズンを通じたYouTubeでの密着配信などを積極的に実施し、大会の認知拡大とサポーターとの関係性を強化させた。またコロナ禍でのオンライン企画として、Assetto Corsa で会場(エコパ)のコースを再現したシミュレーターデータをGitHubで公開し、誰でもオンラインでエコパを走行できる環境を提供した。更に昨年に引き続き大会スポンサーとのオンラインでのミートアップ企画も拡充継続し、面着できないながらも大会スポンサーとチームを繋ぐサポートを実施した。また、学生の新たな発表機会として第2回学生ポスターセッションをオンラインで開催した。キッズエンジニア2021は新型コロナウイルスの影響により初となるオンラインにて開催した。支部主催の小学生向けものづくりプログラムは、新型コロナウイルスの影響により中止とする支部とオンライン開催とする支部があった。講座のオンライン化を推進、新技術分野のエンジニア育成としてCASE技術基礎講座、自動車サイバーセキュリティ講座を引き続き開催した。エシカル・エンジニア開発講座はトライアルを実施した。自動車工学基礎講座はモーターサイクル工学講座を含め計4回開催した。自動車エンジニアレベル認定では、2名のJSAEフェローエンジニア、12名のJSAEプロフェッショナルエンジニア、100名のJSAEシニアエンジニアおよび437名のJSAEエンジニアを認定した。

#### 自動車工学講座

基礎講座	第69回：参加者550名、2021年7月26日～7月30日	オンライン開催	
	第70回（モーターサイクル工学）：参加者296名、2021年9月23日～24日	オンライン開催	
	第71回（マツダ・ひろしま産業振興機構）：参加者258名、2021年11月29日～12月4日	オンライン開催	
	第72回（本田技術研究所）：参加者482名、2022年2月22日～24日	オンライン開催	
	<浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター共催> 2021年度第1回自動車工学基礎講座：参加者32名、2021年11月11日		オンライン開催
エシカル・エンジニア開発講座	トライアル第1回	2021年11月26日、12月2日	オンライン開催
	第2回	2022年3月25日、4月1日	オンライン開催
CASE技術基礎講座	第2回：参加者96名、2022年3月10日～11日	オンライン開催	
自動車サイバーセキュリティ講座	第5回：参加者159名、2021年9月29日～30日	オンライン開催	
	専門プログラム 脅威抽出演習	2021年11月26日	オンライン開催
	暗号技術の基礎	2022年2月14日	オンライン開催
	脅威分析演習	2022年3月3日～4日	オンライン開催
AI, Deep Learning in Mobility	学生を対象としたAI等の講習会および実践コンテストを2022年2月1日～28日にオンライン開催した。参加者142名		

#### 支部の講演会・見学会等

北海道支部	オンライン見学会1回、講演会2回（オンライン又は対面+オンラインにて開催）、特別講演会1回、eモータースポーツ北海道支部大会2021 2回、市民公開特別講座（秋季大会）1回、市民講座4回（内1回は新型コロナウイルスの影響により中止）
東北支部	見学会3回（新型コロナウイルスの影響により内2回中止）、講演会2回開催（内1回オンライン開催）市民講座9回（内1回開催、8回は新型コロナウイルスの影響により中止）、若手技術者&学生次世代自動車技術フォーラム2回（新型コロナウイルスの影響により中止）
関東支部	講演会・講習会（オンライン開催を含む）、見学会を合計12回開催、特別見学会（オンライン開催）を1回開催

	今年で 12 回目となる学生の国際交流活動は、新型コロナウイルスの影響によりタイおよび台湾 SAE との相互派遣は中止。国際交流イベントも中止、。エコ1 チャレンジカップは、新型コロナウイルスの影響により、現地走行を中止し、屋内マッチのみをオンラインで開催。
中部支部	講演会 4 回、研究発表会 1 回、見学会 14 回（新型コロナウイルスの影響により内 9 回中止）、技術講習会 5 回、技術交流会 2 回、技術者懇談会 3 回（新型コロナウイルスの影響により内 1 回中止）、体験型講習会 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）を開催、人とくるまのテクノロジー展 2021 ONLINE に出展
関西支部	見学会 6 回（新型コロナウイルスの影響により内 5 回中止）、講演会 1 回、技術者懇談会 2 回、技術者交流会 1 回を開催（開催行事は全てオンラインで開催）
九州支部	オンライン講演会 4 回（TEAMS システムにて開催）、見学会 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）、関西支部とのオンライン合同例会、1 回（TEAMS システムにて開催）、市民講座 3 回、市民講座 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）技術者交流会 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）

#### 技術者・研究者の認定制度

	JSAE フェローエンジニア 2 名
第 16 回自動車エンジニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア 12 名 JSAE シニアエンジニア 100 名 JSAE エンジニア 437 名を認定

#### 第 19 回 学生フォーミュラ日本大会 2021-ものづくり・デザインコンペティション-

オンライン開催(静的審査)を 8 月下旬、現地開催(車検/動的審査)を 2021 年 9 月 7 日(火)～11 日(土)にエコパ(静岡県)にて実施する「ハイブリッド開催」の予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、現地開催は中止となった(7 月 30 日に中止を公表)。  
その後、8 月下旬からのオンライン開催(静的審査)は下記の内容にて実施。審査はオンライン上で非公開にて実施し、結果および表彰については大会公式サイトにて公示した。各審査やチームからのインタビューやメディア取材も含めたオンライン表彰式イベントも公式 YouTube チャンネルにて LIVE 配信実施した。

##### 【オンライン開催日程】

- ・プレゼンテーション審査：8 月 24 日(火)～25 日(水)
- ・デザイン審査：8 月 26 日(木)～27 日(金)、9 月 2 日(木)
- ・コストと製造審査：8 月 31 日(火)、9 月 1 日(水)
- ・オンライン表彰式(LIVE 配信)&メディア取材会：2021 年 9 月 30 日(木)

##### 【参加チーム状況※】

- ・プレゼンテーション審査：56 チーム (ICV46・EV10)
- ・デザイン審査：55 チーム (ICV45・EV10)
- ・コストと製造審査：54 チーム (ICV44・EV10)

※本年は海外チームのエントリー受け入れは無し

参考 総合成績: 1 位 神戸大学、2 位 大阪大学、3 位 京都大学

##### 【広報関連企画】

- ・公式 YouTube での 2021 シーズンおよびポストシーズン(公式記録会)密着配信(全 21 回)
- ・上記 YouTube 企画での番組サポーターの PR 動画配信
- ・CAMPFIRE にてポストシーズンの YouTube 配信を見込んだファンディングを実施(425 千円)
- ・学生フォーミュラオンラインシミュレーター(Assetto Corsa)の開発とリリース
- ・人とくるまのテクノロジー展(ONLINE)にて上記シミュレーターやチームのインタビューを配信

##### 【学生チームと企業(大会スポンサー)の交流企画】

- ・学生フォーミュラスポンサー WEB ミーティング：本大会前(夏)と大会後(秋)に拡大実施

---

夏日程：6月29日(火)、6月30日(水)、7月1日(木)、7月2日(金)

参加：スポンサー41社、学生180名以上

秋日程：10月26日(火)、10月27日(水)、11月4日(木)、11月5日(金)

参加：スポンサー48社、学生150名以上

- ・大会スポンサーオンライン交流会：大会スポンサー同士の交流とディスカッションを実施

日程：11月2日(火) コアスポンサーとなる企業21社参加

#### 【代替イベントの開催】

本大会後、新型コロナウイルス感染状況の沈静化の確認および、全ての参加者へのPCR検査と現場での感染防止策を実施した上で、「静岡県エコパでの公式記録会」と「各地域での模擬車検会」を現地開催の代替イベントとして実施した。内容はあくまでも審査ではなく、来シーズンのためのチームに対する機会提供となった。

#### <公式記録会 於静岡県エコパ>

下記日程および参加チームにて、動的審査項目(アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、短縮版エンデュランス)のタイム計測を実施した。

- ・10月24日(日)：12チーム
- ・10月30日(土)：14チーム
- ・10月31日(日)：12チーム

#### <模擬車検会>

下記の各地域(会場)および日程、参加チームにて地域に分けての模擬車検会を実施した。

- ・北海道地域(エコパ公式記録会時)10月24日(日)：1チーム
- ・九州地域(久留米工業大学)10月24日(日)：1チーム
- ・南関東地域(神奈川工科大学)11月6日(土)～7日(日)：4チーム
- ・東北地域(一関工業高等専門学校)11月13日(土)：2チーム
- ・北関東地域(ホンダテクニカルカレッジ関東)11月14日(日)：6チーム
- ・中部地域(トヨタ名古屋自動車大学校)11月20日(土)～21日(日)：8チーム
- ・北陸地域(福井工業大学)11月21日(日)：2チーム
- ・関西地域(日産京都自動車大学校)11月27日(土)～28日(日)：8チーム

---

支部合同試走会	8月3日(月)～5日(水)にエコパにて予定していた関東・中部・関西合同試走会は、新型コロナウイルスの影響により中止
北海道支部	学生フォーミュラ車検講習会(新型コロナウイルスの影響により中止)、学生フォーミュラ合同試走会2回(新型コロナウイルスの影響により中止)、学生フォーミュラ日本大会2021報告会(新型コロナウイルスの影響により中止)、学生フォーミュラ2021公式記録会・模擬車検会1校参加
東北支部	模擬機械車検会1回、模擬EV車検会1回開催、試走会4回、技術講習会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)
関東支部	新型コロナウイルスの影響により、夏までに開催予定であった試走会は、全て中止。リカバリとして11月に模擬車検会、12月にEV試走会を開催。
中部支部	走行技術トレーニング1回～5回(新型コロナウイルスの影響により内4回中止)
関西支部	関西支部独自の試走会は中止、講習会・勉強会(新型コロナウイルスの影響により全て中止)
九州支部	試走会2回(7月、10月)予定していた残り2回は新型コロナウイルスの影響により中止、基礎講座1回、車検講習会1回、溶接講習会(新型コロナウイルスの影響により中止)、学生フォーミュラ日本大会2021(新型コロナウイルスの影響により中止)、オンライン勉強会1回(12月)

---

#### 自動運転AIチャレンジ

第3回競技は2021年11月2日～12月22日にかけてオンラインシミュレーションを実施、164チーム、233名のエントリーがあった。競技結果は以下のとおり。

---

最優秀賞 チーム Hayabusa from UPenn (ペンシルバニア大学)

優秀賞 チーム Feris (NTT データオートモビリティジェネシス研究所)

3位入賞 チーム TAK76 (トヨタ自動車)

表彰式を3月5日開催、映像を公開

#### キッズエンジニア 2021 オンライン

2021年8月2日(月)～31日(火)にZoom(ライブ配信)とYouTube(録画配信)を併用しオンラインにて開催。過去最高の参加者となり、北海道から沖縄、海外まで合計8,085名の児童が参加した。

#### 支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座2 キッズエンジニアin北海道自動車整備大学校 2021 市民講座3 キッズエンジニア in 苫小牧 2021 市民講座4 くるま未来体験教室 (市民講座1は新型コロナウイルスの影響により中止)
東北支部	市民講座企画No9(新型コロナウイルスの影響により中止) キッズエンジニア in 東北 2021 仙台は4ヵ月間延期させたが開催中止(福島も、新型コロナウイルスの影響により中止)
関東支部	小学生くるま未来体験教室1回開催(北海道支部主体で開催)。3月のキッズエンジニア in 東北出展は、新型コロナウイルスの影響で中止。
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド 11回を開催(新型コロナウイルスの影響により内4回中止)、教材提供(ヤマハ発動機)で貢献1回
関西支部	キッズエンジニア1回(8月「手回し発電機で電気自動車を走らせよう」オンライン開催 参加者:18名)
九州支部	キッズエンジニア in 九州(12月)(新型コロナウイルスの影響により中止)

#### 次世代カーデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君!カーデザインに挑戦!」

第10回カーデザインコンテスト 応募432作品、6名に各賞を授与、佳作19件

#### 学生活動企画委員会の活動

第2回学生ポスターセッション 学生の発表機会として春季大会期間中に学生ポスターセッションをオンラインにて初開催し、40名が発表した。学生とスポンサーの交流会も実施した(スポンサー10社)。

#### 学生安全技術デザインコンペティション

2020年7月の国際大会(横浜)の開催延期発表に伴い、引き続き活動を順延

#### 学生自動車研究会(学自研)の活動

北海道支部	学自研参与会議3回(オンライン開催)、eモータースポーツ講演会&若手技術者との交流会1回、講演会1回(オンライン又は対面+オンラインにて開催)、eモータースポーツ北海道支部大会2021 2回、第30回雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回(新型コロナウイルスの影響により中止)
東北支部	支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、学自研講演会1回、第40回タイヤ研修会1回、第31回自動車技術独創アイデアコンテスト、1回を全てオンライン開催、見学会1回、第36自動車整備コンテスト、第32回手作り自動車省燃費競技大会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)
関東支部	学自研大会1回、参与会1回は、メール会議実施。支部学生委員会12回開催。見学会、講演会は、3回開催。 学術研究講演会は、新型コロナウイルスの影響によりWeb開催。
中部支部	参与会2回、学生委員会4回、学生委員会引継会1回、ものづくりセミナー1回、基礎技術交流会1回、中部地区交流会1回、スズキエンジン講習会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)、雪上ドライビング講習会1回(悪天候により中止)、EV・ICV比較走行会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)開催

関西支部	<p>参与会 1 回、運営委員会 4 回、講演会・見学会（新型コロナウイルスにより中止）、工場見学会 1 回（三菱自動車工業京都製作所、その他は新型コロナウイルスにより中止）、卒業研究発表会を 1 回開催、中四国交歓会と試乗会は新型コロナウイルスの影響で中止、キッズエンジニアは 1 回開催</p>
九州支部	<p>九州支部学自研総会研究発表会（研究発表会、学生フォーミュラ大会報告、研究室報告）（11 月）オンライン開催、安全運転講習会、学生向け工場見学会、特別講演会（新型コロナウイルスの影響により中止）学自研機関誌 1 回発行、学生委員会議（9 月）オンライン開催</p>

## 8 規格の作成及び普及（定款第 5 条 5 号、公益目的事業 1）

規格会議では、国内標準化審議団体として、自動車分野（自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会）および ITS 分野（ITS 標準化委員会）における標準化活動を推進した。2021年度も新型コロナウイルスの影響により、Web 会議などで対応し、概ね計画通り進捗させることができた。

自動車標準化委員会では、ISO/TC22傘下 SC/WG 会議に専門家が参加し、2件の日本発 NP 提案を含め、積極的な活動を行った。CASE、Society5.0の時代、グローバルで進むカーボンニュートラル化の動きを見据え、自動車周辺の標準化活動の進め方について5つの重点領域を定め、ロードマップ作成や関連ステークホルダーとの連携強化等に関する方策検討に着手した。また最新状況を踏まえ「自動車分野の標準化戦略5カ年計画」を更新した。さらに、標準化活動の広報資料として、冊子「自動車の標準化2021」を発行した。

JIS/JASO 規格審議委員会では、制定案6件、改正案5件、テクニカルペーパー5件を審議した。

ITS 標準化委員会では、ISO/TC204総会/WG会議/TC204レビューアドホックグループ等に専門家が参加し、5件の日本発 PWI/NP 提案を含め、積極的な活動を行った。また「ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画（2022年）」を策定し、最新の標準化活動の広報資料として、冊子「ITS の国際標準化2021」「ITS Standardization Activities of ISO/TC204 2021」を発行した。さらに、省庁や産業界等における情報共有と国際標準化普及促進を目的とした ITS 国際標準化フォーラムを開催した。

自動運転に関する活動では、TC22、TC204領域における「自動運転関連技術に関する標準化海外動向調査」を実施するとともに、欧州、米国、中国等の取り組み状況を把握することで、WP29国連法規活動と連携した我が国における国際標準化戦略作りを推進した。国内における他団体等との連携では、自工会を始めとする自動車関連団体及び ITU-T(通信領域)の標準化団体（TTC 情報通信技術委員会）との連携活動を推進した。

経済産業省 産業標準化事業表彰において、これまでの標準化活動の功績が認められ、経済産業大臣表彰 1名、産業技術環境局長表彰 4名が受賞した。

### 自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

ISO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TC22/SC/WG 会議</li> </ul>
	<p>会議出席： 177会議667名（オンライン開催）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 件の新規作業項目（NP）制定提案</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>-モータサイクルーモータサイクルに取り付けられるライダクラッシュ保護装置の研究評価試験及び分析手順－第 7 部：モータサイクル衝撃試験のコンピュータシミュレーションを実施するための標準手順</li> <li>-モータサイクル及びモペッドーコントロール、インジケータ及び計器の記号</li> <li>・ 64 件の国際規格案（DIS）回答</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6件の日本提案・主導による国際標準規格等発行</li> <li>-自動車-サイバーセキュリティ工学 等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第18回ISO研修会 基礎編 (7月12日) 参加者184名 内容: ISOの基礎知識</li> <li>・第19回ISO研修会 実践編 (12月14日) 参加者94名 内容: ISOエキスパート2名による講演</li> </ul>
JIS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制定原案2件、改正原案1件</li> <li>・JIS・JASO 原案作成講習会 (6月24日、30日) 参加者14名 (10委員会)</li> </ul>
JASO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JASO 制定4件、改正4件、小改正3件、廃止28件、JASO テクニカルペーパー制定4件、改正1件、廃止2件</li> <li>-JASO TP「自動車用運転自動化システムのレベル分類及び定義」改正</li> </ul>
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「自動車の標準化2021」を発行</li> <li>・5か年計画制定・メンテナンスWGを設置し自動車分野の標準化戦略5か年計画を策定</li> <li>・自動運転標準化検討会におけるTC22、TC204、自工会、JASICの連携促進</li> <li>・12部会、64分科会を設置、構成委員数2,407名、開催数391回</li> </ul>
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業 (自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築) 委託元: 野村総合研究所 (自動運転に係る海外動向デスクトップ調査 (Phase1) を含む)</li> <li>・戦略的国際標準化加速事業 (救急自動通報システムに関する国際標準化) 委託元: 三菱総合研究所</li> <li>・戦略的国際標準化加速事業 (自動車内装部材のフォギングに関する国際標準化) 委託元: 三菱総合研究所</li> <li>・2021年度標準化事業 委託元: 日本自動車工業会</li> </ul>
表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化活動功労者感謝状贈呈 12名</li> <li>・産業標準化事業表彰: 産業技術環境局長表彰 2名</li> </ul>

#### ITS 標準化委員会 (高度道路交通システム分野)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TC204 及び関連国際会議</li> <li>会議出席: 51 会議 258 名 (オンライン開催)</li> </ul>
ISO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5件の予備作業/新規作業項目 (PWI/NP) 提案</li> <li>-商用貨物車テレマティクスアプリケーション 第25部: 車両高クリアランスのモニタリング</li> <li>-モビリティ・インテグレーション-ITS データ・アグリゲーション役割機能モデル</li> <li>-低速自動運転車両の遠隔支援システム 性能要件と試験方法</li> <li>-低軌道衛星システムを使ったモビリティサービスの役割機能モデル</li> <li>-ITS 通信の役割機能モデル</li> <li>・6件の国際規格案 (DIS) 回答</li> <li>・6件の日本提案・主導による国際標準規格等発行</li> <li>-路上自動車の運転自動化システムに関連する用語の分類法と定義</li> <li>-商用貨物車テレマティクスアプリケーション 第24部: 安全情報提供</li> <li>-プローブデータ共有のユースケース</li> <li>-スマートシティの ITS サービスアプリケーションのためのロールモデル</li> <li>-車載器セットアップ手法 第3部: ICカード利用</li> <li>-低速自動運転システムサービス 第1部: ロールと機能モデル</li> </ul>
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「ITSの標準化2021」を発行</li> <li>・ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画 (2022) を策定</li> <li>・ITS標準化委員会、技術委員会、ITS国際標準化戦略タスクフォース、WG14分科会関連、その他の国内会議を61回開催、構成委員数288名</li> <li>・ITS国際標準化フォーラム (会場20名、オンライン116名)</li> </ul>
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費 (省エネルギー等国際標準開発 (国際標準分野)) (スマートモビリティシステムに関する国際標準化及び普及基盤構築) 委託元: 野村総合研究所</li> </ul>

表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化活動功労者感謝状贈呈 3名</li> <li>・産業標準化事業表彰：経済産業大臣表彰 1名、産業技術環境局長表彰 2名</li> </ul>
----	---

JIS: Japanese Industrial Standards  
 JASO: Japanese Automobile Standards Organization  
 TC: Technical Committee  
 SC: Sub-Committee  
 WG: Working Group  
 DIS: Draft International Standard

## 9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2021(2021年6～7月)を共催
経済産業省	省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野)):①スマートモビリティシステムに関する国際標準化・普及基盤構築 ②自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築 戦略的国際標準化加速事業:①D-Call Net死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化 ②自動車内装部材のフォギングに関する国際標準化 第3回自動運転AIチャレンジの開催(2021年11～12月)で連携(後援) 第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査に協力
国土交通省	第27回ESV国際会議(神奈川:2021年7月)が延期となり、第9回学生安全技術デザインコンペティションに向けての活動を順延 自動運転標準化研究所(事務局:自動車基準認証国際化研究センター)における国際標準化活動と国際標準化活動の連携 デザイン部門委員会が新たな図柄入りナンバープレートのあり方に関する検討会に協力 技術会議との共同企画によりフォーラム「産学官連携による高効率次世代大型車両開発促進事業の取り組み」を開催(2021年7月)
環境省	車外騒音部門委員会が今後の車外騒音規制のあり方に関する国際動向調査(受託事業)を実施
新エネルギー・産業技術総合開発機構	運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し活動を推進
情報通信技術委員会(TTC)	通信セキュリティの標準化で連携
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を推進
日本機械学会	自動車技術会が幹事となり、第32回内燃機関シンポジウム(群馬/オンライン:2021年12月)を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外におけるPM研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 安全・環境標準化部会、自動運転部会、コネクテッド部会との連携活動 第3回自動運転AIチャレンジの開催(2021年11～12月)で連携(後援)
日本自動車研究所	ISO/TC22(自動車)、TC204(ITS)における国際標準化連携活動
自動車基準認証国際化研究センター(JASIC)	自動運転標準化研究所において、自動運転技術に関する基準(国連法規)、標準(国際規格)連携活動を推進
日本金属学会	材料部門委員会の活動で連携

日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
計測自動制御学会	自動車制御とモデル研究部門委員会の活動で連携
新構造材料技術研究組合	構造形成技術部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画。FISITA2021プラハ大会（2021年9月）のオンライン開催に協力
APAC	APAC-21大会（豪州）は2022年以降へ延期
JASPAR	ソフトウェア関連の標準化で連携
SAE International	
国際会議	国際会議共催の協力覚書のもと協力していた SETC2021(タイ/JSAE 主担当)は中止、SETC2022(兵庫/JSAE 主担当)として準備活動を推進 P, F&L、SETC の専門国際会議運営委員会を設立し協力 P, E&L への名称変更を決定
英国機械技術者協会 (I Mech E)	MOU に基づき友好的協力関係構築の活動を継続
中国汽車工程学会 (China SAE)	
韓国自動車工学会 (Korean SAE)	国際会議等で連携
アジアなど海外に係わる活動	
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
新オンライン展示会に係る活動	従来の自動車業界の枠組みにとらわれず、将来のモビリティに必要な技術・人材を取り込む活動として「“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE」をパイロット開催するにあたり、計測自動制御学会・JASPAR・情報処理学会・人工知能学会・電気学会と新たに連携を推進
講座に係る活動	
自動車サイバーセキュリティ講座	日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC からの講師協力をはじめ、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構、車載組込みシステムフォーラムと連携して開催

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

P, F&L: Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting, P, E&L: Powertrains, Energy and Lubricants Meeting

SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

## 10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

### 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第71回自動車技術会賞	学術貢献賞0件、技術貢献賞2件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞2件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与
技術教育賞	1件に授与
技術部門貢献賞	46件に授与
自動車技術会フェロー	34名に称号を授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった12名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった3名に感謝状を贈呈

出版・編集功績感謝状	編集委員会委員としての活動に多大な功績があった方、本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった方に感謝状を贈呈 編集功績感謝状8名、出版功績感謝状5名
学術講演会運営功績感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった1名に感謝状を贈呈
学生フォーミュラ大会運営功績感謝状	学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献があった6名に感謝状を贈呈
<b>学生対象の業績表彰</b>	
大学院研究奨励賞	156名の大学院生に授与
学自研功労賞	10名の学生に授与
第2回学生ポスターセッション賞	6名に授与（最優秀賞1名、優秀賞5名）

## 11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

### 公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告 定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った。  
・決算書の提出（電子申請）

寄附金 10名の方から総額103千円の寄附金をいただいた。

### 代議員会・委員会・だいじん会

代議員会 第2回代議員会（2022年1月28日）は、新型コロナウイルスの影響により中止

運営企画会議

- ・2021年春季大会 各催事の開催報告
- ・2021年秋季大会 各催事の開催報告
- ・運営企画会議傘下の組織見直しについて確認、承認
- ・入会促進キャンペーンについて確認、承認
- ・会員情報プラットフォームについて進捗報告
- ・2022年春季大会 Keynote Address の企画を検討

総務委員会 第3回女性技術者ネットワーキングカフェをオンラインで開催（2021年12月1日）

広報委員会

- ・プレスリリースを22件配信
- ・ニューズレターJSAE Eye を発行（4月、7月、10月、1月の年4回発行）※今年度にて発行終了とし、今後は会誌等に内容を移行する。
- ・学生フォーミュラシミュレータを題材とした Web セミナーを開催

だいじん会 2021年11月19日（金）にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員10名が参加。

### 規則制定・改正

改正

- 第5回理事会決議：規格会議組織規則
- 第6回理事会決議：経理規則
- 第6回理事会決議：教育会議組織規則
- 第6回理事会決議：自動車エンジニアレベル認定規則
- 第8回理事会決議：教育会議組織規則

### 会員増強

北海道支部 支部活動を PR するために各団体、企業に協力を要請。会員増強に向けオンライン見学会や e モータースポーツ北海道支部大会等、新しいスタイルを実施中。

関東支部 特命事業 WG にて、会員数減少を受け、加入促進活動を実施。各社の人材育成として、自動車技術会の教育講座や行事を活用頂き、一度経験することで良さを分かって貰い、加入へと繋げていく。各種事例（具体的な加入促進活動や費用負担軽減等）を盛り込んだ手引き「自技会活用のすすめ」を作成し、各社に展開した。

中部支部	入会勧誘ポスターを作成し、29社に配布。中部支部イベント参加者（正会員）へのCPDポイント自動付与を開始。
関西支部	2021年度末までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会を開催し、担当理事を介して各機関へ入会促進の協力を要請するとともに、コロナ禍での会員魅力拡大に向け、オンラインでのキッズエンジニアやオンライン技術者懇談会や講演会等、新しいスタイルの行事を実施中
<b>ウェブサイトを活用した会員サービス</b>	
新規システム構築	文献・情報検索システム、会員情報プラットフォーム、ER誌用アンケート、承認システム、クレジットカード決済ページ
システム・データ更新	請求書発行システム、書籍販売システム、学生フォーミュラ支援システム、会誌編集支援システム、ScholarOne Manuscripts、Paper Entry System、アンケートシステム（クエスト）、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、会員情報システム、委員情報システム、JSAEメルマガ、JASO Standards Viewer、書誌情報の電子化、決済システム、セキュリティソフトの入替
<b>支部総会・役員会</b>	
北海道支部	支部総会1回（オンライン開催）、支部理事会2回（オンライン開催）
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回（内1回は実地開催、2回はオンライン開催）
関東支部	支部総会1回（Web開催）、理事会3回（Web会議、内、顧問同席2回）、顧問会1回（書面審議）、事業担当理事会31回開催（ハイブリッド、Web開催）。
中部支部	支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会161回開催
関西支部	支部総会1回（オンライン開催）、理事会2回、各事業別企画委員会4回と編集委員会4回を開催
九州支部	支部総会1回（オンライン/対面のハイブリット開催）、理事会2回（オンライン/対面のハイブリット開催）、常任理事会4回（オンライン/対面のハイブリット開催）

## 参考：事業区分の説明

### 公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

### 公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ誌、予稿集等）

### 公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

#### 収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

#### その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業